

マルコの福音書の学びが先週から始まりました。いよいよイエス・キリストの登場となります。

1. ナザレから来られ (1章9節)

- ①そのころ バプテスマのヨハネが荒野において宣教の働きを始めました。その時に「私よりもさらに力のある方が、あとからおいでになる」と宣言したのです。それも「かがんでその方のくつのひもを解くねうちもない」とヨハネが言うほどに、まったく桁外れの立場の方が来られることを伝えたのです。その方こそ「イエス」なのです。「主は救い」という意味の方です。
- ②ナザレから来られ バプテスマのヨハネが洗礼を授けていたのは、ヨルダン川の南でユダヤの地域でした。一方、「イエス」という人は「ガリラヤのナザレから来られた」とあります。ユダヤからは100キロぐらい北にある地です。ガリラヤ地方にはガリラヤ湖があり沿岸に町が点在していました。ナザレはそのあたりからは西に20キロほど入ったところにある村です。マルコの福音書はイエスの誕生の次第や少年時代の逸話も記していません。イエスはナザレの人と呼ばれることもありました。
- ③受洗 バプテスマのヨハネはこのイエスを「その方のくつのひもを解く値打ちもない」と言っているのです。ヨハネはこのイエスが自分のところにやってくるのを見ると、弟子たちに「見よ、神の子羊」(ヨハネ1:36)とっています。ところが、イエスはそのヨハネからバプテスマ(洗礼)を受けたのです。ここにイエス様の謙遜とヨハネの働き的重要性を見ることができます。

2. 御霊が鳩のように (1章10節)

- ①水の中から バプテスマというのは洗礼と訳されますが、水で浸すという意味です。バプテスマのヨハネは人々の悔い改めを確認した後に、ヨルダン川にその人の体を浸して洗礼を授けたのです。主も同じようにして水の浸しを受けて、他の人々と同じようにその水の中から上がられました。
- ②天が裂けて イエス・キリストのバプテスマは、他の場合と明らかに違っていました。「天が裂けた」とは何でしょう。「裂ける」というのは、壊れるというイメージがあるかもしれませんが、しかし、玉子の殻が破られて命の誕生があるように新しい出来事の始まりという面もあります。ここでは、天の出来事が人の中にもたらされると理解できるでしょう。
- ③御霊がくだる 聖霊降臨の出来事は、主イエスが十字架にかかって復活し天に昇られた後に起きました。今ここでも、イエス・キリストがバプテスマを受けたときに、御霊はくだっているのです。御霊は鳩のようにイエス・キリストの上に下りました。「鳩のように」というのは、鳩が優れた存在と見るのではなく、鳩の羽ばたきのように御霊が下がったことが示されようとしているのです。

3. 天からの声 (1章11節)

- ①天からの声 「天声人語」という新聞のコラムがあります。あれは、新聞社の編集委員が記しているものですが、「天に声あり、人をして語らしむ」から来ているのだそうですが、天からの声のような響きはありません。ここにあるのはまさに主なる神からの声です。主の語りかけです。
- ②わたしの愛する子 父なる神はその子であるイエスを愛しているということがここに明確に語られました。子なる神である主イエスも父なる神を愛していることはいまでもありませんが、天の父なる神の愛を受けて、イエスが地上での働きをなさることがわかるのです。天からの愛を受けているからこそ、イエスは地上での愛の働きを続けることができたのでしょう。
- ③あなたを喜ぶ ここは文語訳、口語訳、新共同訳ともに「わたしの心にかなう者である」としています。イエスの地上での働きは父なる神の喜びであり、主の御心そのものであることがわかります。つまり、父なる神ご自身が、主イエスの地上の働きの推進者であるということを示しているのです。主は喜んで御子を私たち人間の救いのために差し出してくださっているのです。

【結論】 この聖書箇所を読む時に、主はどうして洗礼を受けられたのかという素朴な疑問が生まれます。つまり、人間が洗礼を受けるというのは、罪の赦しときよめの宣言でもあります。しかし、主イエスは「罪を犯したことがなく、その口には何の偽りも見いだされませんでした。」(Iペテロ2:22)とあるように、罪の赦しを受ける必要はなかったのです。むしろ世の罪を取り除く神の子羊でした。誰も主に罪の赦しの意味でのバプテスマを受けることはできなかったでしょう。イエスがバプテスマを受けられたのは、「天が裂け」とあるように、天の救いの御手が伸ばされるということの意味していたのでしょう。また、御霊がイエスの上にくだったということを通して、イエスの宣教が始まりという意味でもあったのでしょう。使徒の働きにおける聖霊降臨も主の弟子たちによる、宣教の開始でもありました。また、ここで父なる神の愛が主イエスの洗礼により、私たち人間にも注がれていることが示されたのです。教会の宣教の働きも、御霊の力、御霊の導きが重要です。私たちの日常の歩みも、御霊の働きと神の愛なくしては進みません。今朝私たちは、この御霊の導き、神の愛をいただいでいきたいと思います。新しいあゆみが始まるのですから。